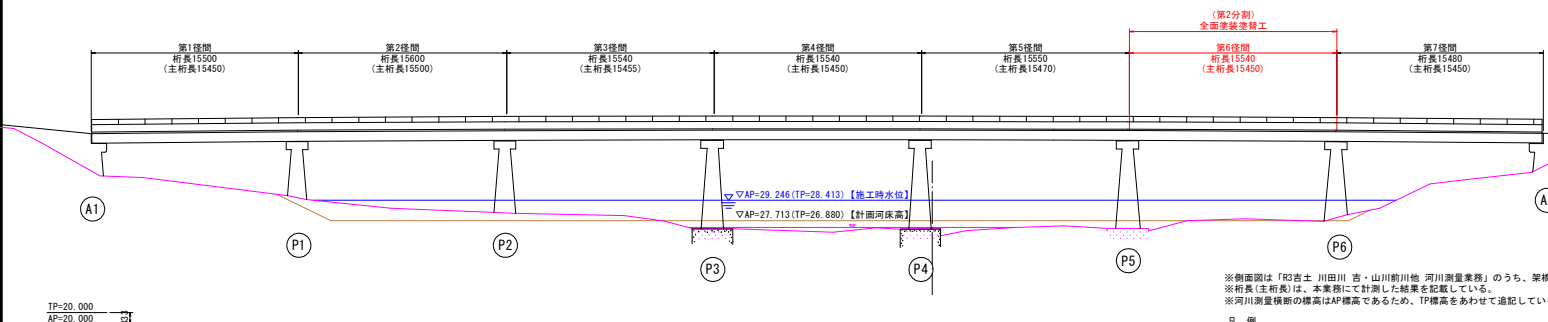


橋梁補修一般図 S=1:200

側面図

瀬詰橋 (No. 2)

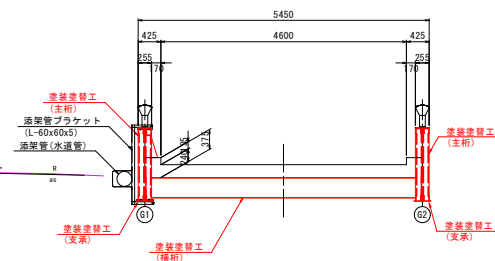
GH=27.139



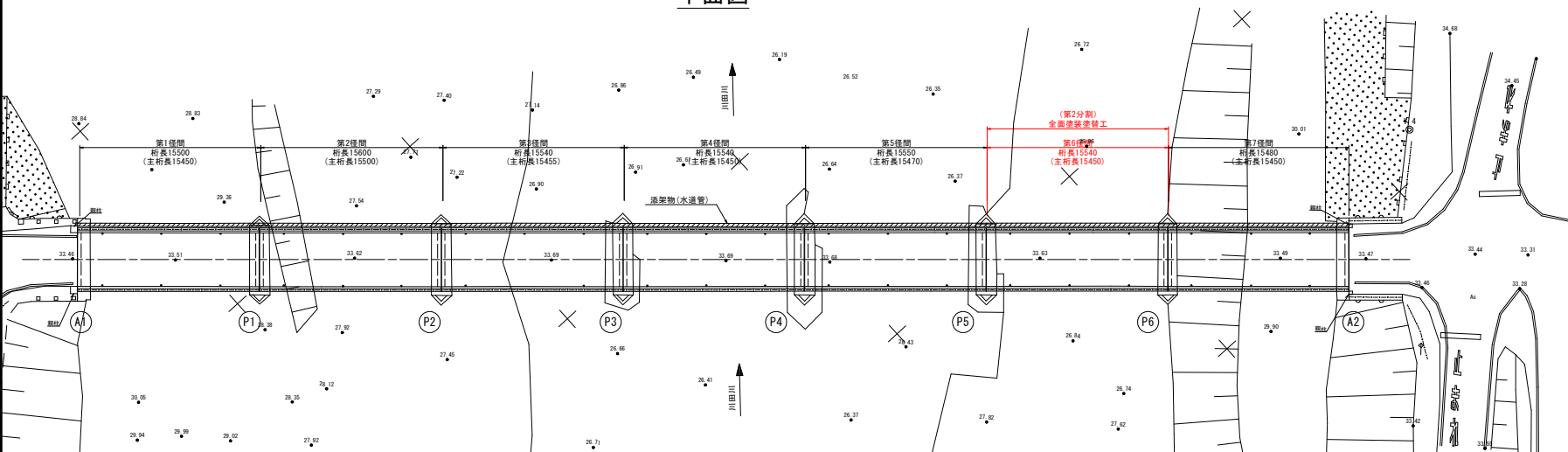
※側面図は「R2吉士 川田川 吉・山川前川他 河川測量業務」のうち、架橋位置の横断面を用いている。
※桁長(主桁長)は、本業務にて計測した結果を記載している。
※河川測量横断の標高はAP標高であるため、TP標高をあわせて追記している。

凡 例	
— R. 3	
— H. 17	

断面図 S=1:50



平面図



※平面図は「H26吉士 船戸山川線 吉・山川大塚・瀬詰橋 橋梁補修設計業務」を用いている。

設計条件	
橋梁名	瀬詰橋
所在地	吉野市山川町大塚
路線名	一般国道 船戸山川線
道路規格	TL-14 (現地道路標準より)
設計速度	-
橋 格	2等級
橋 長	109.200m
支間長	15.200m
幅 員	0.300+4.600+0.300=5.200m
平面線形	R=∞
斜 角	θ=90°
上部工形式	7径間単純非合成1桁橋
下部工形式	重力式橋台・壁式橋脚
基礎工形式	地盤杭
設計震度	上部工 - 下部工 -
使用材料	コンクリート 上部工 30N/mm2 下部工 30N/mm2 鉄筋 上部工 - 下部工 -
添架物	有り(不明)
交差物件	吉野川水系 一級河川 川田川
架設年次	大正14年8月
適用示方書	大正8年道路橋通令
計画高水流量	0-750m3/sec

※上記、設計条件は既往成果より抜粋
「H26吉士 船戸山川線 吉・山川大塚・瀬詰橋 橋梁補修設計業務」

橋梁補修概要		
対象部材	補修対策	備 考
鋼部材	塗装塗替工	全面塗替え(Rc-Ⅰ塗装系)

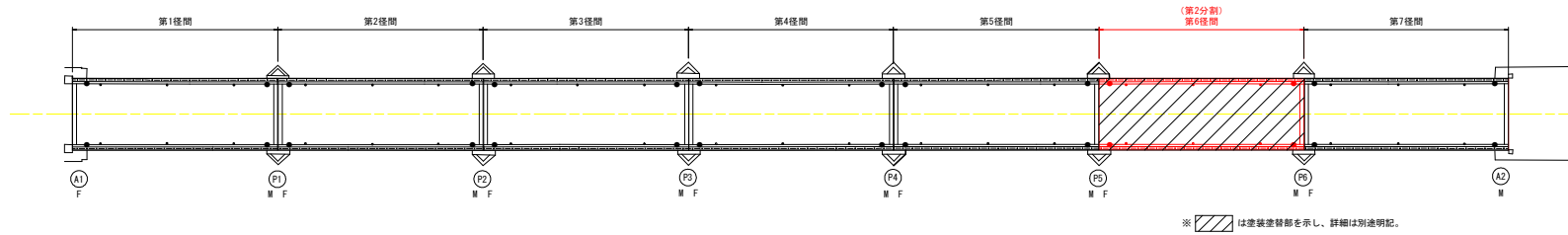
当初設計図面

工事名	R8吉士 船戸山川線(瀬詰橋) 吉・山川大塚 橋梁塗替工事(2)
路線名等	(一) 船戸山川線(瀬詰橋)
工事箇所	吉野市山川町大塚(第2分割)
図 面 名	橋梁補修一般図
縮 尺	図示 図面番号 1 / 5
会 社 名	
事業者名	徳島県吉野川県土整備事務所

鋼部材塗装塗替詳細図(その1) S=1:50

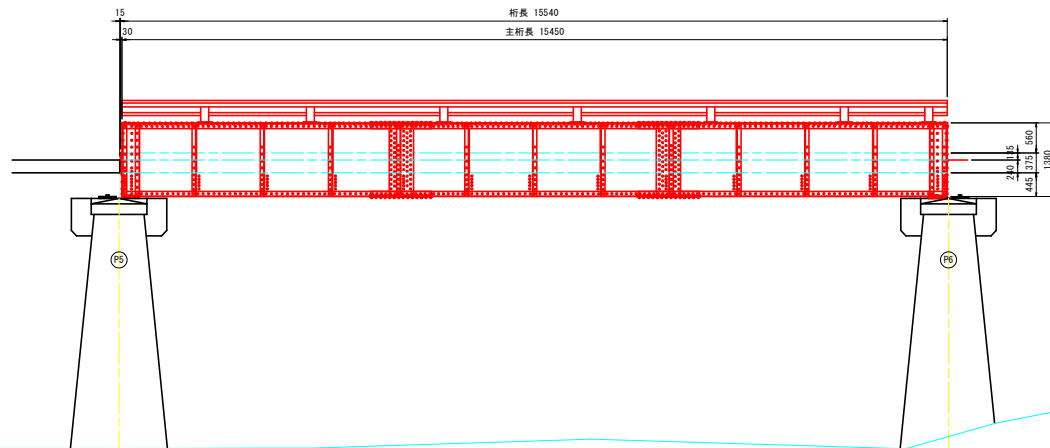
全塗装塗替工

全体配置図

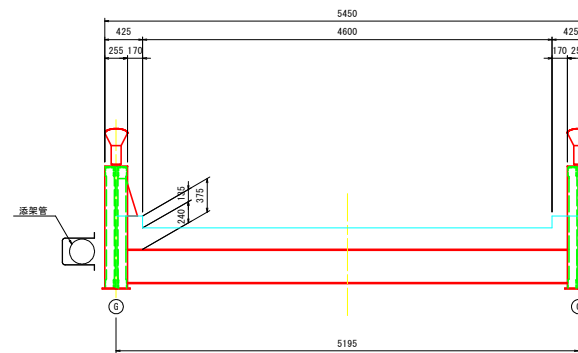


一般図(第6径間部)

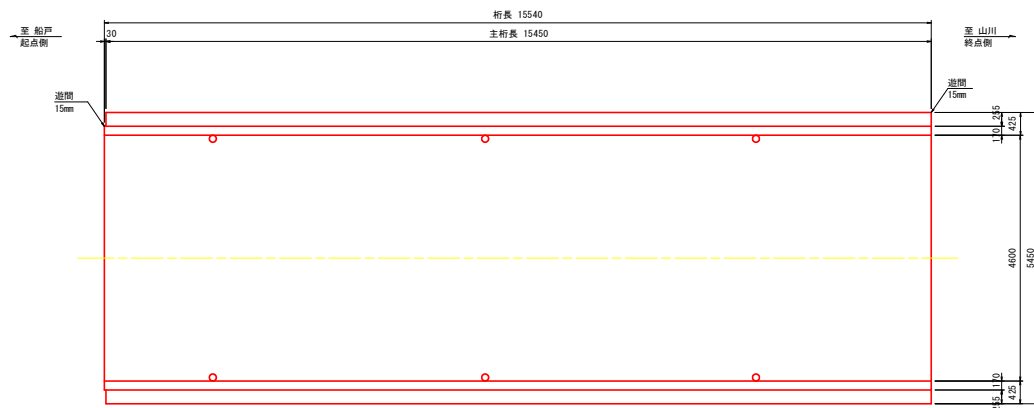
側面図



断面図 S=1:30

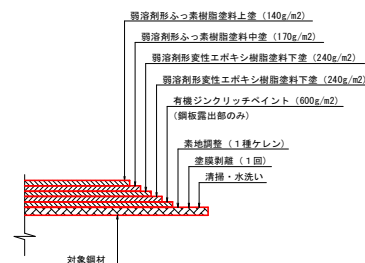


平面図



再塗装図

(塗装仕様: Rc-1)



- 作業開始
調査
清掃・水洗い
塗膜剥離
素地調整
下塗塗装
中塗塗装
上塗塗装
作業終了

Rc-1塗装系 (スプレー)

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m2)	塗装間隔
塗膜剥離	塗膜剥離剤 (1回)		
素地調整	1種		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1~10日
中塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料中塗	170	1~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1~10日

※十分な養生と飛散防止を行うこと。

当初設計図面

工事名	R8吉士 船戸山川線(瀬詰橋) 吉・山川大塚 橋梁塗装工事(2)
路線名等	(一) 船戸山川線 (瀬詰橋)
工事箇所	吉野川市山川町大塚(第2分割)
図面名	鋼部材塗装塗替詳細図(その1)
縮尺	図示 図面番号 2 / 5
会社名	
事業者名	徳島県吉野川県土整備事務所

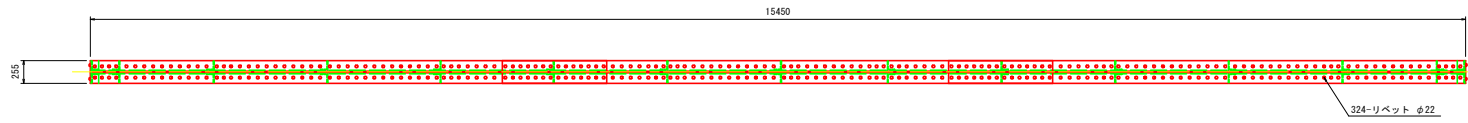
注記

- 本図面は計測結果を基にした復元図である。
- 施工前は現場にて再度形状確認を行うこと。
- 過年度に実施された塗膜調査結果より、既存塗膜内に鉛およびPCBが基準値以上含有しているため、既存塗膜の剥離は塗膜剥離剤を使用すること。また、作業員は化学防護服、呼吸用保護具等の着用を行うこと。
- 設計段階では塗膜剥離剤の塗布回数は2回としているが、施工前に剥離試験を行い、適切な塗布量及び塗布回数を確認すること。

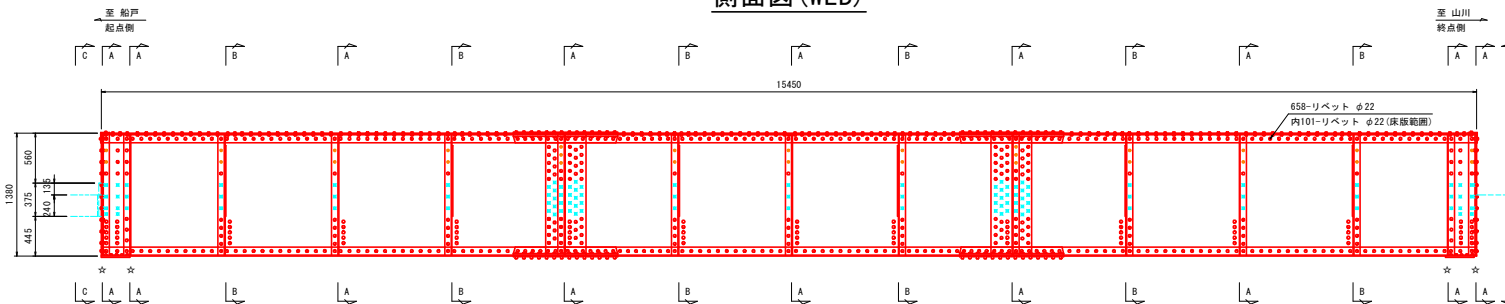
鋼部材塗装塗替詳細図(その2) S=1:30

全塗装塗替工 主桁・支承(第6径間部)

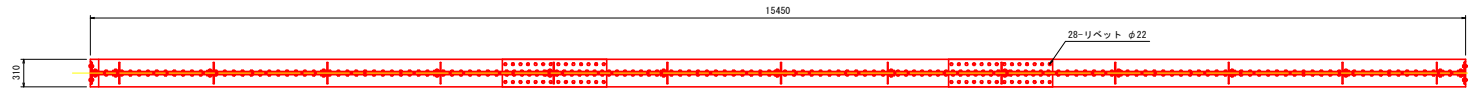
平面図(UFLG)



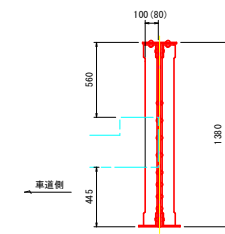
側面図(WEB)



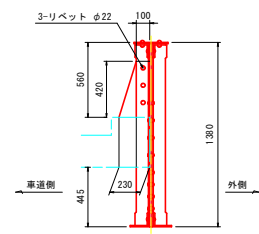
平面図(LFLG)



A-A S=1:20

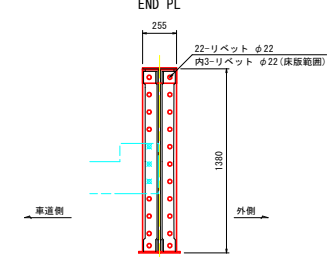


B-B S=1:20



※ ()内は☆印断面の数値を示す。

C-C S=1:20



※ ● は、リベットがない孔を示す。(28箇所)
※ ☒ は、内側がGoで埋まったリベットを示す。

防護柵控除詳細 S=1:10

UFLG 上面

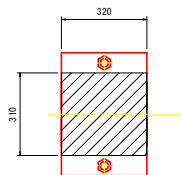


(単位:箇所)

	第1径間	第2～7径間
主桁左(下流)側	8	各7
主桁右(上流)側	8	各7

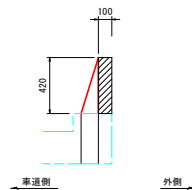
SOLE PL控除詳細 S=1:10

LFLG 下面(支承箇所)



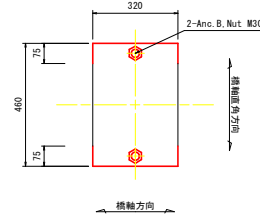
添接部控除詳細 S=1:20

VSTIFF (A-A断面部)

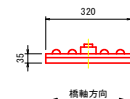


固定支承(F) S=1:10

平面図

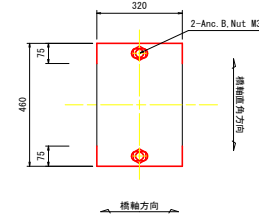


正面図

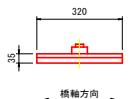


可動支承(M) S=1:10

平面図



正面図



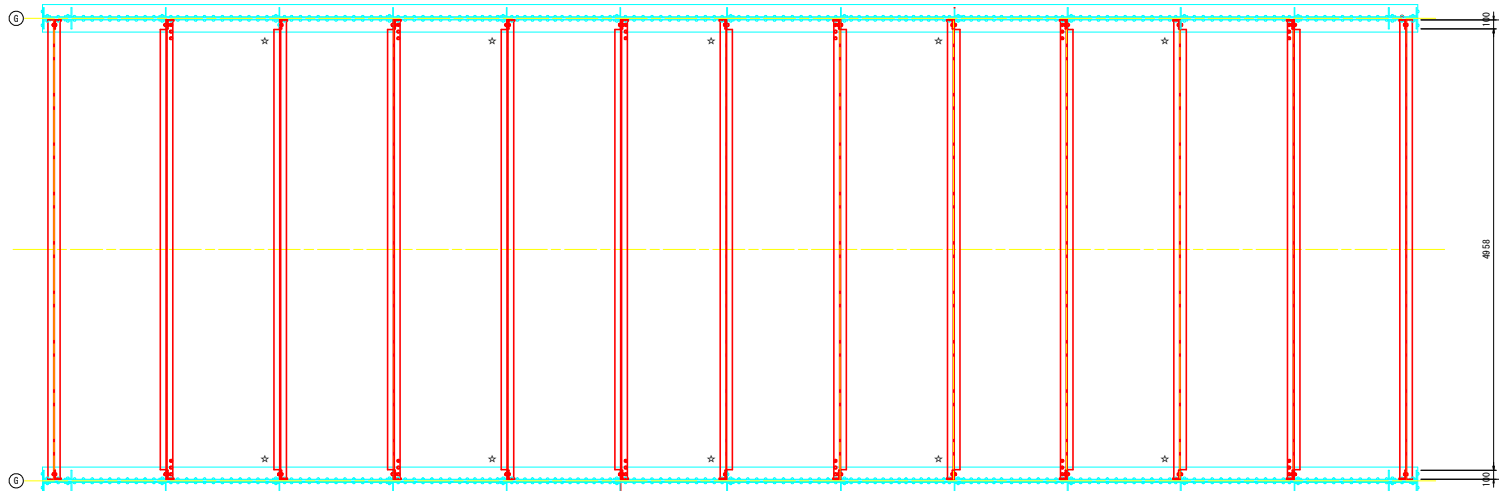
注記

- 本図面は計測結果を基にした復元図である。
- 施工前は現場にて再度形状確認を行うこと。
- 過年度に実施された塗膜調査結果より、既存塗膜内に鉛およびPCBが基準値以上含有しているため、既存塗膜の剥離は塗膜剥離剤を使用すること。また、作業員は化学防護服、呼吸用保護具等の着用を行うこと。
- 設計段階では塗膜剥離剤の塗布回数は2回としているが、施工前に剥離試験を行い、適切な塗布量及び塗布回数を確認すること。

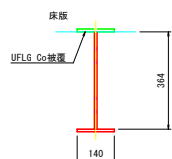
当初設計図面

工事名	R8吉士 船戸山川線(瀬詰橋)
路線名等	吉・山川大塚 橋梁塗装工事(2)
工事箇所	吉野市山川町大塚(第2分割)
図面名	鋼部材塗装塗替詳細図(その2)
縮尺	図示 図面番号 3/5
会社名	
事業者名	徳島県吉野川県土整備事務所

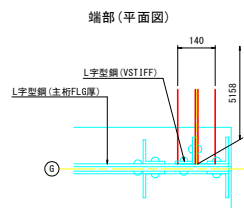
鋼部材塗装塗替詳細図(その3) S=1:30
全塗装塗替工 横桁(第6径間部)
平面図



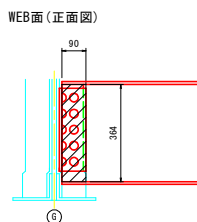
端横桁 断面図 S=1:10



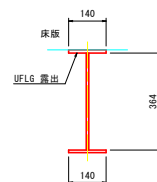
端横桁詳細図 S=1:10



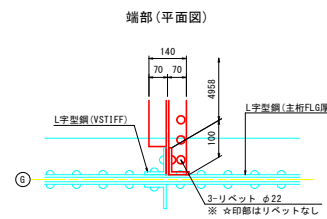
端横桁 添接部控除詳細 S=1:10



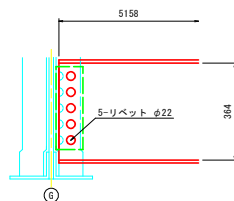
中間横桁 断面図 S=1:10



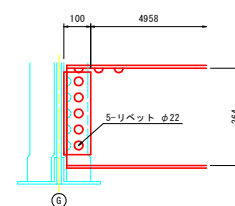
中間横桁詳細 S=1:10



端部(正面図)



端部(正面図)



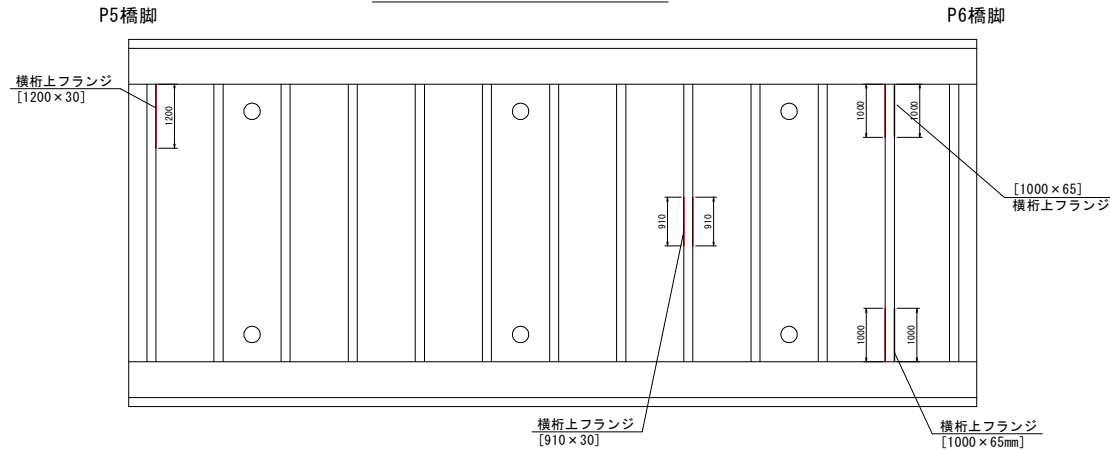
- 注記
1. 本図面は計測結果を基にした復元図である。
 2. 施工前は現場にて再度形状確認を行うこと。
 3. 過年度に実施された塗膜調査結果より、既存塗膜内に鉛およびPCBが基準値以上含有しているため、既存塗膜の剥離は塗膜剥離剤を使用すること。また、作業員は化学防護服、呼吸用保護具等の着用を行うこと。
 4. 設計段階では塗膜剥離剤の塗布回数は2回としているが、施工前に剥離試験を行い、適切な塗布量及び塗布回数を確認すること。

当初設計図面

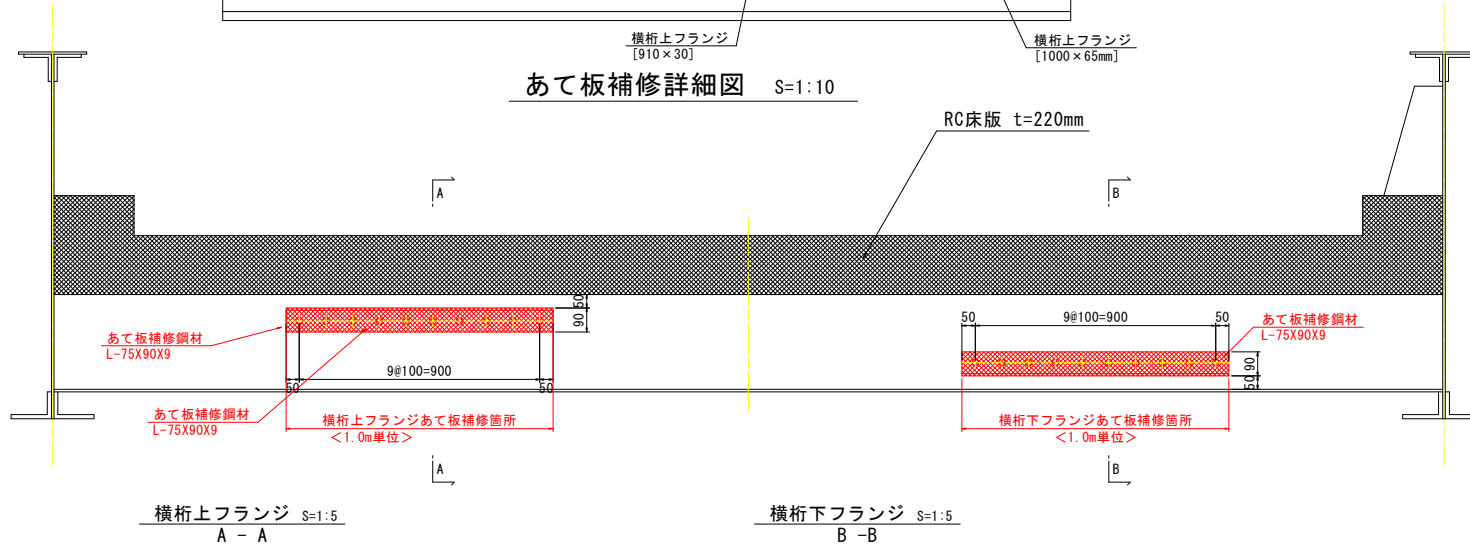
工事名	R8吉士 船戸山川線(瀬詰橋) 吉・山川大塚 橋梁塗装工事(2)		
路線名等	(一) 船戸山川線(瀬詰橋)		
工事箇所	吉野川市山川町大塚(第2分割)		
図面名	鋼部材塗装塗替詳細図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	4 / 5
会社名			
事業者名	徳島県吉野川県土整備事務所		

あて板補修図

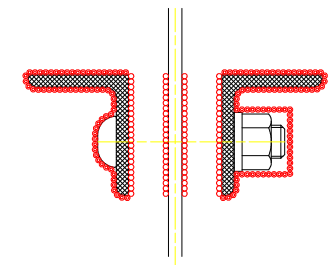
第6径間詳細図 S=1:50



あて板補修詳細図 S=1:10



塗装要領図



- J 接触部(無機ジンクリッチペイント、または高摩擦有機ジンクリッチペイント)
- F-11 現場添接部材(外側)

記号	塗装系
○	J, F-11
○	J

補修数量総括表

径間	延長 (mm)	補修部材			TCB M22 (組)
		部材延長 (m)	単位重量 (kg/m)	部材重量 (kg)	
第6径間	4110	7.02	11.0	77.2	42

※現地実測の上、数量を確定すること。

- 注) ・ボルトの配置については、ボルト中心間隔100mm、縁端距離50mmを基本とする。
 なお、変更する場合は必要縁端距離(37mm)及び所定の中心間隔(75≦p≦150)を確保すること。
 ・端支点横桁におけるあて板補修については、片側のみあて板を行うこととする。
 ・現地実測の上、数量を確定すること。

当初設計図面

工事名	R8吉土 船戸山川線(瀬路橋) 吉・山川大塚 橋梁塗装工事(2)
路線名等	(一) 船戸山川線(瀬路橋)
工事箇所	吉野川市山川町大塚(第2分割)
図面名	あて板補修図
縮尺	図示 図面番号 5/5
会社名	
事業者名	徳島県吉野川県土整備事務所